

## マルクス兄弟珍サーカス (1939)

AT THE CIRCUS

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 アメリカ

色彩 B&amp;W

時間 86分

初公開日 1950/05/23

公開情報 セントラル

## 【解説】

“コメディアンがサーカスに入る話を作るようになったらオシマイ”と小林信彦氏は言われているが、それだけサーカスは動きのギャグの宝庫と言え、まず無難に映画になってしまうのだ。そして、この作品で描かれるサーカスはまず、その辺りの期待を裏切らない。特にクライマックスでの、空中ぶらんこにゴリラをはじめ、四人も五人もぶら下がっての騒動がそれ自体曲芸になってしまうギャグは定石的だがまずまず。

さて、今度もひょんなことから、若いカップルの直面したピンチを救う三兄弟。チコはサーカス団の世話係。若いオーナー、ジェフの叔母はアメリカ一番の富豪の未亡人（M・デュモント）だが、甥に援助はせず、フランスの指揮者とその楽団を招く計画に夢中。これをなんとか懐柔せねば、団は内部謀反派の手に渡ってしまう。そこで芸人のハーポも加わっての団奪取の活躍が展開する。例のつんのめるような大股歩きで傍若無人に振舞って、未亡人に取り入るグルーチョが、彼女主催の大パーティに秘かに呼ぶのはジェフのサーカス団。一方でフランス人指揮者ジャルディネの交響楽団も到着してしまい、彼は連中を新設の水上に浮かぶステージへと案内、観客ぬきで演奏させる。ハーポがそのとも綱を断って、勇壮にワグナーを奏でながら彼らが故国へと出帆してしまうオチは、これは大傑作だった。その他、移動の列車で敵側の小人の“教授”の客室に出向くと、部屋の一切がスケールダウンしており、三人組がまさに巨人に見えるという描写。寝台車で寝ようというハーポにチコが話しかけると、準備万端、彼らは子羊を一匹抱いて、それを数えるだけで眠れる、というギャグが飄々としておかしい。パーティの席上で夫人が挨拶をしようとするとその声に象のいななきが被ったり、キリンの腹の格子柄で○×ゲームに興ずるハーポといった、捻破りの細かなくすぐりも案外笑えた。

## 【クレジット】

監督	エドワード・バゼル	Edward Buzzell
製作	マーヴィン・ルロイ	Mervyn LeRoy
脚本	アーヴィング・ブレッチャー	Irving Brecher
撮影	レナード・S・スミス	Leonard S. Smith
音楽	ハロルド・アーレン	Harold Arlen
	フランツ・ワックスマン	Franz Waxman
出演	グルーチョ・マルクス	Groucho Marx
	ハーポ・マルクス	Harpo Marx
	チコ・マルクス	Chico Marx
	マーガレット・デュモント	Margaret Dumont
	イヴ・アーデン	Eve Arden
	ケニー・ベイカー	Kenny Baker